

検定教科書を有意義に用いたデジタル時代の ラウンド制指導法の活用 —小中接続を意識した 中3段階の4技能5領域の向上に向けて—

Study on the Application of the “Round System” Teaching
With the Effective Use of the Textbooks in the Digital Age
- for the Ninth Graders to Improve English Abilities -

黒川 愛子¹
KUROKAWA Aiko

本研究では、ギガスクール構想（文部科学省, 2019）により各児童生徒に配置された端末・パソコン（以下、TPC）及びデジタル教科書（以下、DT）を用いつつ、中学校3年段階でラウンド制指導法を用いたいかなる指導が生徒の4技能5領域の向上及び小中接続に貢献することができるかを調べ、提案を行う。結論として、TPC及びDTを活用したラウンド制指導法を用いた指導は、教科書内の工夫を活かし統合的な活動を豊富に行うことを通して4技能5領域の向上と小中接続に貢献する可能性があるかと推察された。

1. 研究の背景

文部科学省（2017a）による2020年度からの小学校外国語活動・外国語科の全面実施から4年が経過し、2024年度より新しい文部科学省小学校外国語科検定教科書の使用が始まり、2025年度からは新しい文部科学省中学校外国語科検定教科書が使用開始となる。文部科学省（2017b）が掲げる小中接続は必須である。ギガスクール構想（文部科学省, 2019）から5年が経過し、文部科学省（2024）では中学校での1人一台のTPC活用は99.4%で、その活用は「発表・やり取り（93.2%）」「学習者用デジタル教科書活用（90.8%）」「書く活動（89.9%）」「発音・発話の録音・録画（82.7%）」と活発であることを報告している。TPCを効果的に用いての英語授業の改善も重要である。黒川（2020a）は中学校英語科教員82名を対象に行った調査において、45.1%の教員が「小学校紙面教科書の内容を知らない・どちらかと言うと知らない」と回答し、48.7%の教員が「小学校DTの内容を知らない・どちらかと言うと知らない」と回答したことを報告している。小学校での学びを踏まえた（文部科学省, 2017b）中学校英語教育の改善は重要課題である。検定教科書を有意義に活用する指導法には、「三ラウンド・システム」（竹蓋, 1998）、「ラウンド制指導法」（鈴木, 2007）（以下、括弧を省略）及び「5ラウンドシステム」（金谷・他, 2017）がある。金谷・他（2009）は「授業のよりどころは教科書である」とし、鈴木（2024）も「本文を大切にフル活用すること」の重要性を掲げている。文部科学省（2023a）では令和5年度全国学力・学習状況調査中学校英語の調査結果（以下、学力調査結果）から、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」では「日常的な話題に関する文章の概要を捉えたり、社会的な話題について自分の考えや理由を表現したりすること」に、「話すこと」

¹ 帝塚山大学 教育学部 教授

では「社会的な話題について聞き、自分の考えとその理由を話すこと」、に課題があると
している。本研究¹ではこれらの課題とその解決を考察し、小中外国語科検定教科書（以
下、教科書）を分析し、教書内の工夫を活かし TPC も活用しての中学 3 年生（以下、中
3）対象のラウンド制指導法の活用の提案を行う。

2. ラウンド制指導法とその先行研究

ラウンド制指導法は「多様な方法を用いて、いろいろな角度から一つの教材を学習さ
せ、全体から部分へ、そして全体へと進む循環形式の指導法（鈴木，2007）」である。鈴
木は（1）内容の概要理解，（2）内容の要点理解，（3）内容の細部理解，（4）文構造と言
語材料の説明と理解，（5）音読による内容理解と言語材料の内在化，（6）和訳と音読によ
る言語材料の内在化，（7）音読による言語材料の内在化とリプロダクション，（8）復習，
（9）コミュニケーション活動，と進む 9 ラウンドの指導手順を挙げている。ラウンド制
指導法研究には高校生を対象とした鈴木（2007），藤田（2012；2013；2020）が，中学生を
対象とした黒川（2019；2020b；2023；2024a），大学生を対象とした笠巻（2022，2023）が
ある。鈴木はラウンド制指導法のリスニング及び読解スピードへの効果を，藤田は GTEC
の合計点及びライティングへの効果を，黒川（2019；2020b）はスピーキングへの効果を
報告している。黒川（2023）では中 1 段階の，黒川（2024a）は中 2 生段階のラウンド制
指導法の活用を報告している。本研究では中 3 生対象の活用の提案を行う。

3. 研究の目的と研究課題

本研究の目的は中 3 段階での 4 技能 5 領域の向上に向け，教科書内の工夫を活かし，
ラウンド制指導法を用いて，いかなる授業改善を行うことができるかを調べることであ
る。本研究では以下の 2 つの研究課題を設定する。

研究課題 1: ラウンド制指導法を用いた指導は学力調査結果から観察される中 3 生の課
題の解決に貢献する可能性があるか。

研究課題 2: 教科書内にどのような工夫が観察され，それらの工夫を活かし，中 3 段階
でどのようなラウンド制指導法を用いた指導を行うことがデジタル時代の
授業改善につながるか。

4. 研究の方法

本研究では，小中接続及び 4 技能 5 領域の向上に関わる工夫という視点から，活動設
計を中心に 6 社の令和 2 年度版小 6 用教科書（以下，小 6 教科書）及び令和 3 年度版中
学校教科書の計 24 冊の分析を行ったが，分析対象の中心は中 3 教科書であり，ラウンド
制指導法の提案は 6 社全ての中 3 教科書を用いて行う。以下に示す教科書名については
教科書名の最後の数字が 6 は小 6，1 は中 1，2 は中 2，3 は中 3 対象であることを示す。

5. 結果と考察

5.1 分析 1: 研究課題 1 に関わって

5.1.1 学力調査結果から観察される中 3 生の現状・課題に関わる考察

表 1 に文部科学省（2023a）が報告する中 3 生の現状・課題を示す。

表 1 内の「聞くこと」に関する問題では，生徒は 96 語の英文を聞く前に自身が 2 班の

リーダーであるという設定を与えられ、最後に“**What is your group’s job at the barbecue party?**”という問いを聞き適する解を選ぶが、58.1%の生徒が2班の役割を聞き取れていないことが明らかになった。生徒が「自分ごととして英文を聞く設計」を工夫する必要があると示唆していよう。「話すこと」に関する問題では生徒は「日本の店でビニール袋を売らない提案」を聞き自身の考えと理由を話す必要があるが、77%の生徒が不正解で、2割近い生徒が発話を行っていない。相手の話を聞き自身の考えを伝える豊富な活動設計が必要であろう。「読むこと」では概要把握に関わる発問に工夫を凝らし、「書くこと」では生徒が思考を働かせ既習語彙を用いて自身の考えと理由を書くための支援が必要であると考えられる。

表1 文部科学省（2023a）が報告する中3生の現状・課題（表は筆者の作成による）

技能	文部科学省が示す現状・課題
聞くこと	日常的な話題について自分の置かれた状況などから判断して必要な情報を聞き取る問題の正答率が41.9%である。
話すこと	「話し手の意見に対する自分の考えとその理由を話す問題」の、正答率4.2%、無答率18.8%、社会的な話題について聞き、自分の考えとその理由を話すことに課題がある。
読むこと	3段落から成る13文の英文を読み、概要を表す文章を選ぶ問題で、正答率35.2%で、日常的な話題に関する文章の概要を捉えること・内容の具体性のバランス等を踏まえ英文全体の主題と各段落の主な内容が過不足なく含まれているかを判断することに課題がある。
書くこと	意見文を読み、書き手の意見に対する自分の考えと理由を英語で書く問題の正答率20.1%、無答率28.9%、誤答率27.8%である。

5.1.2 学力調査結果から観察される中3生の課題解決（以下、課題解決）に向けてのラウンド制指導法の貢献の可能性

表2に文部科学省（2023b）が示す課題解決に向けての学習過程を示す。

表2 文部科学省（2023b）が示す課題解決に向けての学習過程（表は筆者の作成による）

領域に関わる課題と課題解決に向けての学習過程
自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る力を育成するための学習過程： （1）自分の置かれた状況の理解などを理解する，（2）英語を聞き，どういった情報を聞き取らなくてはならないかを把握する，（3）再び英語を聞き，自分にとって必要な情報は何かを判断する，（4）学んだことを他の場面や状況で活用する
短い文章の概要を捉える力を育成するための学習過程：（1）文章を読む目的を把握する，（2）文章を読み，各段落の主な内容を捉える，（3）段落間の関係を把握する，（4）概要としてまとめた英文に情報の不足や偏りがいないか検討する。
統合的な活動・学習過程：読む目的に応じて要点を捉えた上で，内容に対する感想や賛否，自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど領域を統合した言語活動を行うことが大切であり，なぜそのように考えたのかという理由を考えさせたり，生徒の発話に対して教師が理由を尋ねたりするといった取組が効果的である。

ラウンド制指導法では、生徒は本文を the first listening, the second listening, the third listening と異なる多様な角度からのタスクの中で概要から詳細へと繰り返し「聞くこと」に取り組む。「読むこと」でも the first reading, the second reading, the third reading と異なるタスクに向け概要から詳細へと多様な発問を意識して繰り返し読む。「話すこと」「書くこと」では多様なアウトプットの中で自身の思考を伝える。最終的に「聞くこと」「読むこと」「話すこと」からつながる多様な「書くこと」に取り組む。これらの特長から、

表 2 で示す課題解決に向け貢献できると推察される。

5.2 分析 2: 研究課題 2 に関わって

5.2.1 「聞くこと」に関わる教科書内で観察される工夫に関わる分析と考察

表 3 に *NEW HORIZON Elementary 6* (以下, *NHE6*) から *NEW HORIZON English Course 1* (以下, *NH1*), *NEW HORIZON English Course 2* (以下, *NH2*), *NEW HORIZON English Course 3* (以下, *NH3*) で観察される「聞くこと」における工夫に関わる分析結果を示す。

表 3 *NHE6*, *NH1*, *NH2*, 及び *NH3* で観察される「聞くこと」における工夫に関わる分析結果

教科書	「聞くこと」における工夫に関わる分析結果
<i>NHE6</i>	話された順序を書き込む活動が中心で取り組みやすくなっている。
<i>NH1</i>	絵を選ぶ活動から始まり、聞き取るポイントが日本語の発問として提示され、Unit 6 以降は内容に合う語・写真・絵を選ぶ問題・線で結ぶ活動が中心で取り組みやすい。
<i>NH2</i>	各 Scene 内の Listen は選択式で、単元末の Let's Listen では目的・場面・状況が提示され、Before You Listen で「飛行機に乗るとき機内でどのようなことをして過ごしたいか」等の、自分事として聞くことへの工夫がある。聞き取った内容を確認し、「登場人物になったつもりで聞いた内容を他者に伝えるやり取りにつなげている。
<i>NH3</i>	単元末に 6 回ある Let's Listen には登場人物の意見の理由を聞いて書き込み、聞いた内容を英文で示す適語補充を行う。最終段階では聞き取ったメモをもとに自身の意見を述べる・聞いた内容について例を参考に自身の思いを伝えるスピーチを行う。

表 3 から、3 社の教科書ともメモを参考に話す活動や即興性をもって話すことへの支援や例を参考に生徒が自身の思考を話すことに取り組むための支援の工夫が観察される。

5.2.2 「話すこと」における教科書内で観察される工夫に関わる分析と考察

表 4 に *SUNSHINE ENGLISH COURSE 3* (以下, *SE3*), *BLUE SJY English Course 3* (以下, *BS3*) 及び *ONE WORLD English Course 3* (以下, *OW3*) における「話すこと」に関する工夫に対する分析結果を示す。

表 4 *SE3*, *BS3* 及び *OW3* における「話すこと」における工夫に関する分析結果

教科書	「話すこと」に関する工夫に関わる分析結果
<i>SE3</i>	各単元の Speak & Write に例文を参考に自身の立場で話す・書く。Step 1 の「ディベートをしよう」では、(1) 話題に関わる意見文を聞く・読む、(2) 自身の考えを書いたメモを見てやり取りする。Reading 1 では自身が筆者だと想定し自身の考えを書きやり取りする、PROGRAM 7 Retell では内容理解のメモをもとにやり取りを行う。
<i>BS3</i>	各単元の USE に例文にならない自身の立場をやり取りする。Express Yourself で発表例を聞き、自身の立場で原稿を書き、発表し質疑応答をする。Let's Talk でモデル対話を聞き・読んだ後にモデル対話を参考に自分たちの立場でやり取りする。Target のまとめの Let's Try に対話例を参考に自分たちの場合を考えやり取りする。
<i>OW3</i>	Think & Try では教科書内の会話をロールプレイで演じ、自由に 1~2 文を加えたり自由にセリフを変えてやり取りしたり、コマーシャル動画の導入部分の一部を自由に変えて話す。表内の英語を参考に他者紹介を話す。例文を参考に質問に自身の立場で答える、Project 2 では例文を参考に友達のスピーチに質問し、感想を述べる、Further Reading 3 の Comprehension Check では内容理解に関わるやり取りを行う。

表 4 から生徒が例を参考に思考をやり取りすることができるための支援が観察される。

5.2.3 「読むこと」に関わる教科書内で観察される工夫に関わる分析と考察

表 5 に *Here We Go!6* (以下, *HWG6*), *Here We Go! ENGLISH COURSE 1* (以下, *HWG1*), *Here We Go! ENGLISH COURSE 2* (以下, *HWG2*), 及び *Here We Go! ENGLISH COURSE 3* (以下, *HWG3*) 内の「読むこと」に関わる工夫についての分析結果を示す。

表 5 *HWG6*, *HWG1*, *HWG2* 及び *HWG3* 内の「読むこと」における工夫に関する分析結果

教科書	「読むこと」に関する工夫に関わる分析結果（活動設計）
<i>HWG6</i>	「世界の友達 3」では 2 名の人物が将来の夢を伝える 12 文の英文が登場し、映像を視聴し内容理解を行い、内容を共有する協働学習後に、話していた英文を読む。
<i>HWG1</i>	各 Unit 内の各 Part の本文に日本語の質問が提示され概要を掴む活動があり、 <i>You Can Do It!</i> 内の Reading では 6 名の自己紹介文を読み共通点・相違点を見つける。Unit 7 Goal では登場人物の葉書を読み筆者の気持ちが書かれた部分に下線を引く。
<i>HWG2</i>	Let's Read 1 の After You Read では、①出来事の順序に合うよう概要をまとめる表内に適語補充を行う。②Let's Read では段落ごとにある英問や全体に関わる英問をもとに内容理解を行う。③After You Read の日本語をヒントに概要の適語補充を行う。
<i>HWG3</i>	Let's Read 1 の Before You Read には読むことへの興味を引く日本語の発問がある。After You Read では①英文日記の流れに合うよう表に適語を補充し、概要を掴み英文で書く、②自身の中学校生活との類似点・相違点を考える、③筆者の心情を考えグループで話す。Let's Read 3 の Before You Read では日本語の発問と英語のキーワードをもとに内容理解を行う。After You Read では①スピーチ内で筆者が最も伝えたかったことを英文にする、②スピーチ内で共感できる部分と共感できない部分を考える、③自身が同じ題名のスピーチを行う際の内容を考える。

表 5 より、概要を掴むことを目的に読むこと、書き手の思いを理解するために良くこと、及び、読むことにより自身の思考を深めていくこと、を意図しての「読むこと」の活動設計の工夫があることがわかる。

5.2.4 「書くこと」における教科書内で観察される工夫に関わる分析

表 6 に *NEW CROWN Junior 6* (以下, *NCJ6*), *NEW CROWN English Series 1* (以下, *NC1*), *NEW CROWN English Series 2* (以下, *NC2*), 及び *NEW CROWN English Series 3* (以下, *NC3*) 内の「書くこと」に関わる工夫の分析結果を示す。

表 6 *NCJ6*, *NC1*, *NC2* 及び *NC3* 内の「書くこと」における工夫に関する分析結果

教科書	「書くこと」に関する工夫に関わる分析結果（活動設計）
<i>NCJ6</i>	Lesson 1 Write では I の横の四線上に like や have を書き入れ、その後に語を書き写す。Lesson 7 では英文例、英単語例、巻末カード例を参考に自分のことを書く。
<i>NC1</i>	Lesson 1 では自己紹介文を聞き自己紹介を行った後に用いる英文の整理をし、それらを用いた英文や他の動詞も用いて発話する。ALT の自己紹介文を学んだ後、メモを参考に自己紹介文を書く。Lesson 8 では伝えたい内容を日本語で考え、Opening, Body, Closing を意識してグループで考え・整理するした後で個人で書く。
<i>NC2</i>	各単元の Talk & Write や Speak & Write で発話した内容を英文で書く。Project 1 の Write では将来の夢スピーチを聞き、考えを伝え合った後に別のスピーチ原稿を読み、スピーチ原稿を書く。Project 2 の Write では、姉妹校の人たちへのアンケート結果を読み、修学旅行提案を聞く。提案内容を話し合い企画書のポイントを整理し、企画書を協働学習で書く。USE Writ では伝えたいポイントを日本語で書き、Opening, Body, Closing を意識して英語でポイントを書き、文章を書く。
<i>NC3</i>	各単元内の Talk & Write または Speak & Write では発話した内容を英文で書く。Lesson 1 USE Speak ではスピーチ動画の視聴後、原稿を読み工夫点を考え、自身の原稿への考えを整理して書き、発表する。Lesson 3 USE Read では、物語の概要を年表にまとめる・概要を表す英文内に適語補充を行った後に自分が送りたいメッセージを考え書く。

5.3 教科書内で観察される工夫を活かし、中3段階で、ラウンド制指導法を用いて、どのような指導を行うことが、デジタル時代の授業改善につながるか

5.3.1 「聞くこと」から「話すこと[やり取り]」につなげる中3段階のラウンド制指導法の活用

表7にNH3 Unit 6内のBeyond Bordersを題材にラウンド制指導法を用いての「聞くこと」からにつなげる中3段階のラウンド制指導法の指導例を示す。

表7 NH3 Unit 6内のBeyond Borders (Scene 1 及び 2) を用いての「聞くこと」から「話すこと[やり取り]」につなげる指導例

活動項目	タイトル名例・発問例・活動内容
各 Scene のタイトルを選択する	A 海外での新しい生活 B ランドセル寄付のお願い C 学校に行けない子どもたちを救おうキャンペーン
The First listening (概要理解)	子どもたちはどんな思いを伝えていますか。海外に何を送りますか。
The Second Listening (要点理解)	(1) Do the children in some parts of the world wish they could go to school? (2) Can we donate our old school backpacks? (3) Has Meg heard of groups that collect Japanese school backpacks?
The Third Listening (細部理解)	(1) Where were Japanese school backpacks sent? (2) What kind of other things can we also donate? (3) Has Meg heard of groups that collect Japanese school backpacks? (4) メグは自分が日本の中学生だったらどうするのでしょうか。
Read and Think に関わる Q&A シート活用 (各生徒の TPC にも送信しておく)	The First listening, the second listening, the third listening 内の発問及びデジタルテキスト内の Q&A を盛り込み、推論発問も加える 推論発問例: (1) If you want to help the children in Afghanistan, what will send? (2) If you were a child in Afghanistan, what would you get?
Q&A シートを用いての音読練習・「話すこと[やり取り]」	教員との音読練習後にペアワークでの音読練習を行う。両者が Q&A シートを用いての練習後に、質問に答える生徒は Q&A シートを見ずに答える、両者ともシート裏にある日本語を見てやり取りを行う。Q&A シートを TPC に配信し、授業内及び家庭学習でも用いることもできる。
TPC を用いての指導	Q&A シートを用いてのペアワークや各生徒が英問だけを見て英語で答える活動を録画し教員に送信する。(評価に用いることができる。)

5.3.2 「読むこと」から「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」につなげる中3段階のラウンド制指導法の活用

SE3 の Reading 1 Faithful Elephant には内容理解に向け、1st Stage に日本語の質問、2nd Stage に段落ごとに Check として各 1 問の日本語の質問が、Guess として、日本語の推論発問が提示されている。

表8に「読むこと」への工夫を活かす活動例を、表9にBS3内のLet's Read 1 The Last Leaf と Let's Read 2 Origami Ambassador を用いた活動例を示す。

表8 SE3 Reading 1 Faithful Elephant の内容理解後に行う活動例

1	英語 Q&A シート活用	内容理解の再確認のために英問英答を音読練習しやり取りする。
2	モノローグ音読・発話	像の Joh, Tonky, Wanly の発話 (モノローグ文) として音読練習を行い、発話する。
3	登場人物発表	登場人物 (像, 飼育員さん) の立場を考えやり取り・発表を行う。

表 9 BS3 内の Let's Read 1 The Last Leaf 及び Let's Read 2 にある Think の活動を活かす活動例

題材名と教科書内の Think	活動名と活動内容
The Last Leaf「バーマンをどう思いましたか。友だちと話し合ってみましょう」	A 登場人物なりきりロールプレイ＝本文を再度読み、登場人物 3 名の思いを考え行う。B 創作英語劇発表＝自分が登場人物だった場合の台詞を考え英語劇発表を行う。
Origami Ambassador「加瀬さんの行いについて話し合おう」	C 個人スピーチ発表＝自分が加瀬さんならどんな思いで活動を行ったかを考え加瀬さんになったつもりで思いを発表する。

表 8 及び表 9 から、TPC を用いた録画により生徒が振り返りを行い、「話すこと」の内容を向上させていくことや、「書くこと」につなげることができることがわかる。

5.3.3 生徒の思考を促しに重きを置いた「読むこと」から「話すこと[やり取り]」及び「話すこと[発表]」につなげる中 3 段階のラウンド制指導法の活用

表 10 に OW3 内の Andrew Hepburn の内容理解後に行う指導例を示す。

表 10 OW3 内の Reading 1 Andrew Hepburn の内容理解後に行う「読むこと」から「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」につなげる中 3 段階の指導例

第 1 段階 発問例	Yes, No で答える事実発問 Q&A シートを用いてのやり取り Was Andrew Hepburn the star of the Roman Holidays and My Fair Lady? Was Audrey Hepburn famous as an actress?
第 2 段階 発問例	疑問詞を用いた事実発問 Q&A シートを用いてのやり取り Who took Audrey to the Netherlands when she was ten. What did Audrey think about the Netherlands?
第 3 段階	本文をモノログとして、全て I から始めて音読練習を行う。
第 4 段階	I から始めるモノログ文としてサマリーをペアと伝え合う。
第 5 段階	「自身が彼女にインタビューする記者だったら、何をたずねたいか」「自身が彼女であれば、何を話したいか」を考えロールプレイを行う。
第 6 段階	段落ごとの内容から思考を深め伝え合う班での協働学習。 第 2 段落を用いた場合の活動例 本文：Hepburn had a difficult time when she was a child. Although her father was rich, he left family when she was young. Her mother took Andrew to the Netherlands when she was ten. She thought it was a safe place, but the German army took over the Netherlands when Audrey was eleven. Her dream of becoming a ballerina had to wait. (1) difficult time とはどんな時間だったであろうか、(2) あなたが 10 歳・11 歳の Hepburn だったら、どんな気持ちだろうかを、の 2 点を考え、班内で英語で伝え合う。
第 7 段階	第 7 段落を用いた場合の活動例 本文：Hepburn thought spending time with her family was very important. After married, she bought a house in Switzerland. She always felt safe there because she didn't have to worry about war. She spent as much time as she could with her two sons. She wanted to be with them when they needed. (1) 彼女は結婚後、どんな思いで家族との生活を大切にしたのだろう。(2) 彼女がスイスで生活が安全だと感じたのはなぜだろう。上記 2 点を班内で英語で伝え合う。
第 7 段階	発表する段落を 6 つの班で分担し思考を伝える「話すこと[発表]」を行う。

表 10 で示す Q&A シートを用いての活動に慣れてきた時点で、発問を生徒に作成させ、TPC で共有し生徒作成版 Q&A シートを活用することもできる。表 10 が示すように、生徒は何度も本文を読み直す。第 4 段階・第 5 段階では自身がインタビューしたい英問を TPC で共有し多様な思考を伝える応答を共有し合うこともできる。第 6 段階では各段落の英文を再度読み「話すこと」につなげる協働学習を行う。各班で段落を分担し自分たちの思考を伝える「話すこと[発表]」を行い、「読むこと」から思考を促し、「話すこと[や

り取り]」から「話すこと[発表]」へと協働学習による統合的な活動を行うこともできる。何度も本文に触れ、考えて話す機会の積み重ねを行うことがラウンド制指導法によるアウトプットであるため、教科書を有意義に活用できると言えよう。TPC で班内でのやり取りを録画し、互いに視聴し発話を改善し合い、学級内での「話すこと[発表]」につなげることができる。班ごとの録画を教員に送信させ評価に用いることもできる。第 7 段階での発表した内容を「書くこと」に繋げていくこともできることがわかる。

5.3.4 「書くこと」につなげる中 3 段階のラウンド制指導法を用いての統合的な活動

表 11 に NC3 内 READING FOR FUN 2 A Present for You (4 ページ, 463 語) 内の Read and Think (以下, R&T) を活かした「書くこと」につなげる統合的な活動例を示す。

表 11 NC3 内 A Present for You 内の R&T を活かした「書くこと」につなげる活動例

R&T 内の発問	「最後の場面で、デラとジムはそれぞれどのような気持ちだったと思いますか」「もしあなたがデラなら、ジムへのプレゼントに何をを用意しますか」
モノログ音読	登場人物のデラまたはジムになりモノログに変えて音読練習を行う。
サマリー	サマリーをペアやグループによる協働学習を通して行う。
R&T を活かした活動	(1) 各登場人物の思いを考えて発話する。(2) 自身が各登場人物だったらどんな思いであるかを考えて発話する。(3) 登場人物 2 名のどちらかを選び、自分ならどんな思いかをモノログ文で発表する。(4) 発話内容を書く。
互いへの手紙文作成	「登場人物 2 名が互いに相手に自身の思いを伝える手紙で書いたとしたら」という設定で書く。

5.3.5 中 3 段階のラウンド制指導を用いた指導における ICT の活用例

表 12 に統合的な活動内での TPC の活用例を示す。

表 12 ラウンド制指導法による統合的な活動における TPC の活用例

A	段落ごとに、登場人物の思いを「自分だったら」と考え、即興で発話し、TPC に録画する。
B	録画映像を見て、自身の発話を確認し、追加や修正を考え、再度 TPC に録画する。
C	ペアやグループで各登場人物の立場となってロールプレイを行い、発話を TPC に録画する。
D	録画映像を見て互いの発話を確認し合い追加や修正を考え、再度 TPC に録画する。
E	やり取り、発表後に発話録画を見て発話した英文を書き、TPC に入力する。
F	パートナーや教員からのフィードバックやコメントに基づき修正し、最終原稿を送信し、学級内で共有して「読むこと」につなげる。評価の対象とすることもできる。

音読を重視するラウンド制指導法では、授業開始時の帯活動として、中 1・中 2 段階で用いた指導者用 DT を用いての「一斉復習音読」及と音読した単元をペアワークでサマリーを行う「即興サマリー」が挙げられるが、表 12 から TPC 内の学習者用 DT を用いて授業内の個別学習や家庭学習にも活用できることがわかる。

6. 結論とまとめ

先述した結果と考察から、結論として以下の 3 点が挙げられる。

- (1) ラウンド制指導法を用いた指導は学力調査結果から観察される中 3 生の課題の解決に貢献する可能性があるかと推察される。
- (2) 教科書内には、小中接続、4 技能 5 領域の向上、統合的な活動設計に向けて、多様

な工夫が観察される。特に中 3 対象の教科書には統合的な活動設計が豊富にあると考えられる。

- (3) 中 3 段階でラウンド制指導法を用いての指導を行うことで、教科書内の工夫を活かし、指導者用及び学習者用 DT 及び TPC を活用しつつ、統合的な活動を豊富に行うことが可能となり、4 技能 5 領域の向上と生徒の思考を促す授業を実践することが可能となると推察される。

本研究では教科書内の工夫を活かし TPC を活用しつつの中 3 段階でのラウンド制指導法の活用について調べた。今後は新教科書を用いてのデジタル時代におけるラウンド制指導法の活用の探究を続けたい。本研究がラウンド制指導法を用いた授業の一提案として貢献できれば幸いである。

注

1. 本研究は全国英語教育学会第 50 回福岡研究大会で口頭発表を行った内容(黒川, 2024b)を詳細に報告するものである。

引用文献

- アレン玉井光江・他 (2020). *NEW HORIZON Elementary English Course 6*. 東京書籍.
- 卯城祐司・他 (2021). *SUNSHINE ENGLISH COURSE 3*. 開隆堂出版.
- 太田洋・他 (2021). *Here We Go ! ENGLISH COURSE 1*. 光村図書出版.
- 太田洋他 (2021). *Here We Go ! ENGLISH COURSE 2*. 光村図書出版.
- 太田洋他 (2021). *Here We Go ! ENGLISH COURSE 3*. 光村図書出版.
- 笠島準一・他 (2020). *NEW HORIZON English Course 1*. 東京書籍.
- 笠島準一・他 (2020). *NEW HORIZON English Course 2*. 東京書籍.
- 笠島準一・他 (2020). *NEW HORIZON English Course 3*. 東京書籍.
- 笠巻知子 (2022).「大学英語授業における『ラウンド制指導法』に基づく 4 技能を統合した指導」『教育実践研究』4, 桃山学院教育大学. 73-87.
- 笠巻知子 (2023).「大学英語授業の指導法が教員志望学生の将来の英語指導法に及ぼす影響 ー大学英語授業における『ラウンド制指導法』は彼らが将来使いたい指導法を考える上で影響を与えるか?ー」『教育実践研究』5, 桃山学院教育大学. 10-22
- 金谷憲・他 (2009).『教科書だけで大学入試は突破できる』大修館書店.
- 金谷憲・他 (2017).『英語運用力が伸びる 5 ラウンドシステムの英語授業』大修館書店.
- 黒川愛子 (2019).「日本人中学生のスピーキング力育成に対する『ラウンド制指導法』の有効性に関する実証研究: 中学 2 年生段階での活用」『LET 関西支部研究集録』17, 31-55.
- 黒川愛子 (2020a).「話すこと [やり取り]」における「思考・判断・表現」の評価に関わる考察ー小・中学校の学びの連続性を意識した指導をめざしてー」2018 年度～2021 年度 科学研究費補助金 基盤研究(B) 研究成果中間報告書Ⅱ『小中接続を目指し学習者の思考・判断・表現と学びに向かう力を促進する授業設計と評価』104-113.
- 黒川愛子 (2020b).「日本人中学 2 年生・3 年生のスピーキング力育成に対する『ラウンド制指導法』の効果に関する実証研究『LET 関西支部研究集録』18, 99-124.
- 黒川愛子 (2023).「小中接続を意識した『ラウンド制指導法』の活用 : 検定教科書を有意義に用いた中 1 段階の指導」『帝塚山大学教育学部紀要』4, 8-17.

- 黒川愛子 (2024a). 「検定教科書を有意義に用いたデジタル時代におけるラウンド制指導法の活用:小中接続を意識した中 2 段階の 4 技能 5 領域の向上に向けて」『帝塚山大学教育学部紀要』5, 1-10.
- 黒川愛子 (2024b). 「デジタル時代における検定教科書を有意義に用いたラウンド制指導法の活用—小中接続を意識した中 3 段階の 4 技能 5 領域の向上に向けて—」『全国英語教育学会第 50 回福岡研究大会発表予稿集』492-493.
- 小泉仁・他 (2020). *Here We Go ! 6*. 光村図書出版.
- 酒井英樹・他 (2020). *CROWN Jr. 6*. 三省堂.
- 鈴木寿一 (2007). 「コミュニケーションのための基礎力と入試に対応できる英語力を育成するための効果的な指導法—ラウンド制指導法」『平成 18 年度 Super English Language High School 研究開発実施報告書』71-84. 京都外大西高等学校.
- 鈴木寿一 (2024). 「本当に学習者のためになる英語教育を目指して」英語授業研究学会関西支部 2024 年度春季大会講演資料.
- 高田哲朗 (2010). 「ラウンド制リーディング指導法」門田修 平・野呂忠司・氏木道人 (編著)『英語リーディング指導ハンドブック』152-157. 大修館書店.
- 竹蓋幸生 (1998). 「三ラウンド・システム: 理論の骨格と効果の検証 : 英語コミュニケーション能力の効果的な養成を目指して」『千葉大学教育学部研究紀要. II, 人文・社会科学編』46. 87-97.
- 田尻悟郎・他 (2021). *BLUE SKY English Course 3*. 啓林館.
- 根岸雅史・他 (2021). *NEW CROWN English Series 1*. 三省堂.
- 根岸雅史・他 (2021). *NEW CROWN English Series 2*. 三省堂.
- 根岸雅史・他 (2021). *NEW CROWN English Series 3*. 三省堂.
- 藤田賢 (2012). 「『ラウンド制指導法』を用いた教科書を使った英語で行う授業の研究」『中部地区英語教育学会紀要』41, 221-228.
- 藤田賢 (2013). 「高校英語授業における『ラウンド制指導法』と『文法訳読法』による効果の比較」『中部地区英語教育学会紀要』42, 269-274.
- 藤田賢 (2020). 「高校英語授業におけるラウンド制指導法による実践例とその効果」『人間文化: 愛知学院大学人間文化研究所紀要』35, 154-172.
- 本田敏幸・他 (2021). *ONE WORLD English Course 3* 教育出版.
- 文部科学省 (2017a). 『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示)』文部科学省.
- 文部科学省 (2017b). 『中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説外国語編』文部科学省.
- 文部科学省 (2019). 「GIGA スクール構想の実現パッケージ」https://www.mext.go.jp/content/2019-mxt_syoto_01_000003363_14.pdf
- 文部科学省 (2023a). 「令和 5 年度全国学力・学習状況調査の結果」<https://www.nier.go.jp/23chosaKekkahoukoku/report/data/23summary.pdf>
- 文部科学省 (2023b). 「令和 5 年度全国学力・学習状況調査報告書 児童生徒一人一人の学力・学習状況に応じた学習指導の改善・充実に向けて 中学校 英語」https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23meng_k.pdf
- 文部科学省 (2024). 「令和 5 年度『英語教育実施状況調査』概要」https://www.mext.go.jp/content/20240527-mxt_kyoiku01-000035833_1.pdf